

SHIRAKOBATO

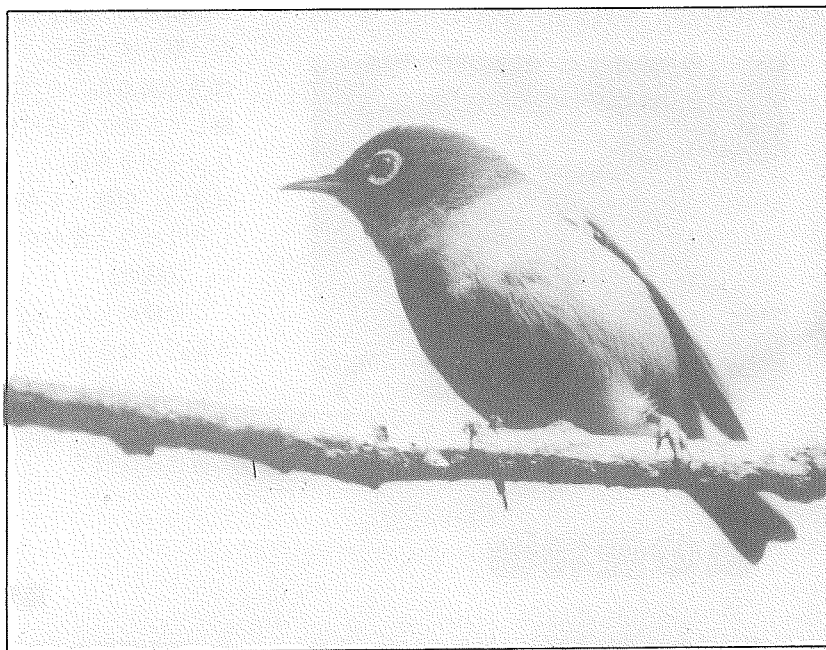
しらこぼと



1988. 3

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 46

日本野鳥の会 埼玉県支部

わたしの工夫

みなさんもいかが？

私の思い付き

探鳥に出掛けるとき、三脚は手に下げますか？ それともショルダーベルトを付けて肩に掛けますか？

私は両手が放せるようにショルダー式ですが、その最初の日の出来事です。駅で切符を買うべく財布を出そうとした瞬間、三脚が肩から落下した（そういう経験ありませんか）。

それ以来、切符を買う時は三脚を土間に降ろすようになり、歩く時も常に肩からのズレが気になって仕方が無かった。

そこで、浅才な頭で考えてみました。なぜ落ちるのか、それを防ぐ手段は、と。それは



私の便利物

私の人生に楽しみが一つ増えました。それはバードウォッチングです。その楽しみがだんだんエスカレートし行動範囲が広がってまいりました。それに伴って私の便利物も変化してまいりました。ウエストポーチにはじまり、ポシュッと。私が初めて探鳥会に参加させていただいたのが61年5月の軽井沢探鳥

諸徳寺四郎（大宮市）

肩のベルトの掛る場所をリュックの厚いベルトが占めているからであり、しかも肩の先端部より高い位置にある。即ち撫肩になった形である。それでは低い方へズレて行くのが当然。されば、リュックのベルトに三脚のベルトを止めること。取外しが簡単なこと。にすれば良い。簡単だ。マジックテープを使えばいい。それなら男でも縫付けられる。早速小間物屋で買って来た。

さて、テープは凹凸である。何れを何れに付けるか？「リュックを用いない場合でもズレが防げ、三脚を用いない場合でもおかしくない形」をと考え、リュックには凹、三脚には凸と決めた。それに右肩が疲れた場合を考慮して左側にも縫付ける。これで出来上り。リュックを背負い、三脚を肩に掛けて鏡の前に立つ。引張ってみた。大丈夫。外すとき少しバリバリと音がするが、これ位は仕方が無い。完成だ。

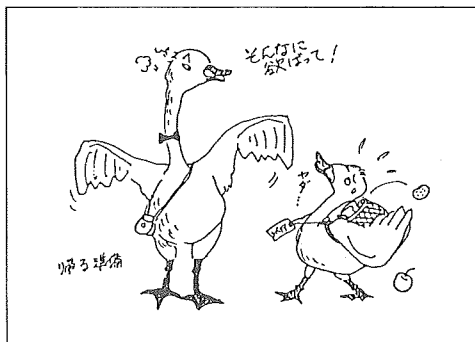
この様にして、止り止めを付けてから既に5年近くなるが、マジックテープも取り替えずに三脚も落したことが無いのである。

安価で、誰にでも取付けられて、安全。皆さん如何？

藤野 富代（浦和市）

会（あの感動のアカショウビンを見た時です）。その頃の私は山歩き用の財布とメガネが入る位のベルトに通して使う物入れでした。その後スキー用のウエストポーチになりだんだん持物が多くなるにしたがって物足りなくなってきました。そこで私は考えました。咄嗟の時、「サッ、と出せるなにか便利な物を

作ってみようと思い、双眼鏡、図鑑、ノート、エンピツ、ハンカチ、メガネ、e t c. 全部収納出来、更に体につけて歩ける物入れを作り、現在肩から斜に下げて私にとって頗る便利物として愛用している次第です。しかし私の鳥見は加熱気味となり、県内から県外へとお誘いを受けますと、年令甲斐もなく勇んでどこへでも飛んで行くようになってきました。したがって私の便利物も増えました。それは「ポケット」です。着ているシャツやベストのポケットは私にとって便利物です。蓋のないポケットにはスナップやファスナー等を取り付け中味が落ちない様にします。既製品に少し工夫をこらしますと便利な使い方が出来ます。大事なお金や切符はシャツのポケットに納めます。私が家を出る時から帰宅迄安心して歩けます。「私の便利物、それは一寸し



押川 歳子 (蕨市)

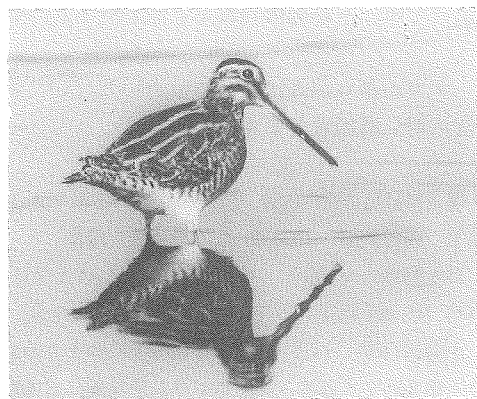
た工夫と手を加える事によって出来た物と言うのでしょうか。誰でも一つは使い易いものをお持ちの事でしょう。それを使いこなしてこそ「私の便利物、になるのではないのでしょうか。」

||||||| [個人的きまま野鳥記 2] タ シ ギ |||||

冬の枯れ田のあぜみちを、鳥を探しながら歩いていると、突然あしもとから、タシギがジュッ、ジュッと飛び上がる。なんだ、お前らはそんなところにいたのかよと驚いて歩いていくと、またもやジュッ。なんだまだいたのか、まったくにくたらしい。

よく探さない自分がわるいのに、ついやつあたり。

枯れ草やつちくれの背景にみごとに溶け込む忍者。ひたすら地味に生きているようだが、良く見れば、やはり野生の美しさに満ちている。



長いくちばしをさしこんで餌をとる場面を写そうと、くちばしをさしこんだところと、抜き出したところをねらった。

差し込んだところとはもかく、抜き出したところの写真は、みんな頭がブレていた。フィルム1本分全部。やつめ、抜き出したくちばしの先端にくわえたえさを、頭を前後に細かく動かしてくちばしのもとのほう、喉へと送り込むらしい。それに気づかず、わざわざその瞬間をねらってシャッターを押していたものだから、ブレるはずだ。ひとつ勉強した。

タシギのくちばしはわりと柔らかく、先端は鋭敏で、そこで泥中の餌の存在を知り、長いくちばしの先端だけをそらして餌を捕らえるということを聞いた。だが泥中のことだから見えないだろうとあきらめていた。

ある日、ほかの鳥の観察をしていて、ブラインドの近くで羽づくろいを始めたタシギを何気なく見ていたら、突然あくびをするようにくちばしの先端をそらした。続けて何度も大きく。おおっ、あれがそうか。へええ、本当にそるんだな、あんなに大きく。またひとつ勉強した。

(五条壇武男)

埼玉県のタカの渡り

日本野鳥の会 埼玉県支部研究部

はじめに

1987年秋のタカの渡り調査は、県内4カ所で実施された(表1)。本小論はその結果と考察を述べる。

県内における主な渡りルート

本県においては1982年より県支部研究部において渡りルートの調査が実施され(埼玉県野鳥の会1984)て発表されている。県西部の標高200~500mの上昇気流の発生しやすい低山、丘陵地帯上空を好んで飛行している(表2)。本年に限って言えば、通過羽数のピークが相関を持っていないため調査地点は同一ルート上には無い(図1)。

高指山の観察結果

サシバの渡り個体数は1987年10月4日、高指山にて149羽と大きな値を示した(表3)。
①朝、7時から飛来。②ルートが日中を通して一定していない。③通常の南西でなく西へ飛去する。④10月初旬であるが個体数が多い。など過去5年間の観察結果と著るしく異なる(金井 未発表)。特に10月4日に大きな個体数を得たのは秋雨前線の停滞が一週間以上続き、前日晴れたが風が強かったため結果的に長い足止めになったためと思われる。

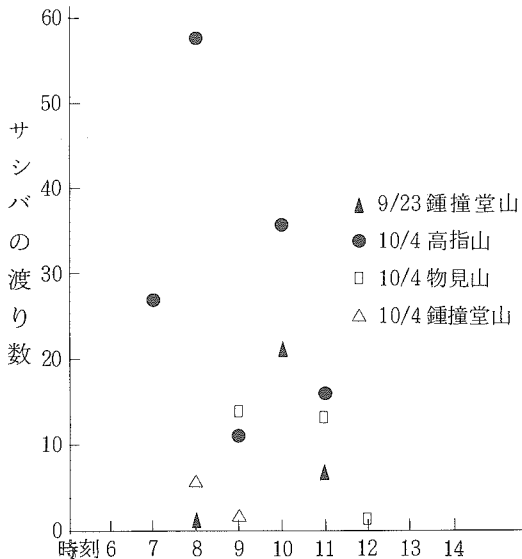


図1 埼玉県内の調査地点におけるサシバの渡り数

表1 タカの渡り調査体制

調査種別	月/日	調査場所	人数	天気
予備	9/23	寄居、鍾撞堂山	2	はれ
	10/3	白高、白金平	1	はれ
本調査	10/4	寄居、鍾撞堂山	9	快晴
		鳩山、物見山	9	快晴
		白高、高指山	10	快晴

表2 埼玉県内におけるタカ類の主な渡りルート(埼玉県野鳥の会 1984)

ルート	コース 径 路
I	鍾撞堂山、釜伏峠、四ツ山、磯山、金勝山、堂平山、飯盛山、正丸峠
II	二宮山、嵐山、物見山、大高取山、高指山、天覧山
III	北中、狭山丘陵

表3 1986/1987年サシバの渡り羽数

年	月日	無線山	鍾撞堂山	物見山	白金平	高指山
1986	9/23	2	31	—	—	—
	9/28	11	—	—	—	—
	10/5	—	6	—	—	52
1987	9/23	—	31	—	—	—
	10/3	—	—	—	6	—
	10/4	—	4	28	—	149

前日ねぐらの推定

サシバの飛行速度は30~40km/h(日本野鳥の会)と観察されている。4日、高指山では7時に渡りが確認されているため、ねぐらの出発時間を6時(小荷田1986)とすると、県北にも前日ねぐらがある事が推定される。前年はピークが9時のため栃木県の那須高原から足尾山地山麓部と推定した(小荷田1986)。

天気による渡りルートの変動

1985年(未発表)、1986年(小荷田1986)、本年と検討すると渡りルートは少なくとも15km位の幅を持ち、当日の気圧配置や微気候によってルートが選択されると思われる。

タカの渡り調査に当り御協力いただいた各位に対し感謝致します。

<文 献>

- 埼玉県野鳥の会 1984 タカ類の渡りのコースわかる 朝日新聞 1984.9.30 埼玉版 浦和
- 日本野鳥の会 1986 タカの渡り新しい事実発見 野鳥 No. 484 1986.12 p.11 日本野鳥の会 東京
- 小荷田行男 1986 1986年秋埼玉県のタカの渡り 第3回タカの渡りシンポジウム予稿集 日本野鳥の会兵庫支部 神戸



|||||||ホケ、ホケ、ホーホケキョ|||||||

田口恵美子（浦和市）

こんにちは、せっかくの春の便り…と思っていると、急に寒くなったり、なかなか落ち着いていられませんね。

というのは、毎年、うちの近辺に住んでいる(?)ウグイスが、きれいな声で春を教えてくれるのですが、今年は異常に早かった様に思えるのです。なんと初鳴きは、先月1月の30日でした。この頃は確かに暖かい日が続いていましたよね。なんとも頼りない声での第一声でした。“ホケ、ホケ、ホーホケキョ”といった具合で、思わず「頑張れ」と心の中で応援してしまいました。これが、2～3日は続いたのですが、またやってきた寒波のせいで、ウグイスは口をつぐんでしまいました。きのうも、うちの庭に遊びに来ていましたが、ただ、枝から枝へととび移るだけ…。また、あの美声を聞かせてくれるのはいつになることやら、待ち遠しいものです。

|||||||コゲラだ、コゲラだ|||||||

原口 郁子（入間市）

今朝(昭 62.12.6)、8時過ぎに庭の柿の木に見馴れぬ鳥が一羽しきりに動いていました。双眼鏡で見ますと白と黒(灰色がかった)の横じまの鳥がせっせと幹をつついていました。コゲラだ、コゲラだと皆で動きを追っていますと、柿の幹を上から下につつきながら降りて来たり、両足でしっかり幹につかまり、コツコツと音でも聞こえそうに繰り返していました。雀はびっくりして、枝先や電線に逃げていました。シジュウカラも遠い枝でひまわりを食べていました。庭にコゲラが来たのは初めてで、しまいには、窓近くの柿の木にまで来て、ゆっくり楽しみました。2時間ちかくいて飛び去りました。

|||||||三室 V S 大麻生|||||||

諏訪 隆久（熊谷市）

早いもので、大麻生探鳥会のリーダーを担当して半年になります。また、私は、大麻生以外にも、三室へよく顔を出しています。この2カ所の“定例”探鳥会を比べて、ひとつだけ、私にとって快くないことがあります。三室のほうが、鳥合せの時の出現種数が多いのです。大麻生が25種前後、三室が30種前後なのです。

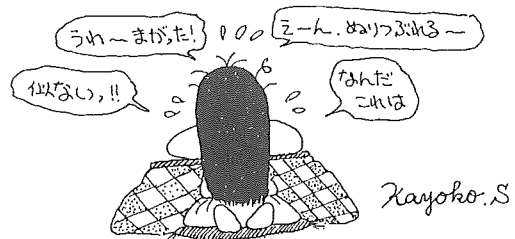
鳥の多い土地というのは、“環境の変化に富んでいる土地だ”という話を入会したてのところに聞きました。大麻生も三室も、川があります。湿地(水田)もあります。草原もあります。森林もあります。

三室の場合、幸運にも、浦和市郊外に多くの自然が残ったと考えられます。三室付近では他に鳥のいるところがないのです。それで結果的に探鳥会で歩いていける範囲に鳥が集中しているのだと思います。

逆に、大麻生地区では、水辺の鳥を見ようとするか、森林の鳥を見ようとするか、草原の鳥を見ようとするかで、全く違う道を歩かなければなりません。さらにゴルフ場が営業をはじめて以来、どうしても探鳥会のコースが、かぎられたものになり、見ることでできる鳥が少なくなっていると思います。ただ、野鳥の絶対数は、大麻生の方が多いでしょうし、コハクチョウの越冬や、カモや小鳥を襲うオオタカは三室では見られないものです。

三室が野鳥識別の勉強の場所と考えれば、大麻生はその実践の場所だと思います。

ぜひ、探鳥会コース以外も、1日いっぱいかけて、グループで大麻生を歩くことをお勧めいたします。



野鳥情報

- アオサギ** ◇12月12日、蓮田市の黒浜沼で1羽(中島康夫)。
- コハクチョウ** ◇1月31日、川本町の植松橋下流の荒川で32羽(諏訪隆久)。
- トモエガモ** ◇12月30日、本庄市の阪東大橋下流の利根川で♂1羽(香川裕之)。
- アメリカヒドリ** ◇1月10日、本庄市の阪東大橋下流の利根川で♂1羽(北川慎一)。
◇1月15日、越谷市の古利根川で♂1羽(神場真文)。
- オオホシハジロ** ◇1月2日、久喜市の昭和池で♂1羽(中島康夫)。
- ホオジロガモ** ◇12月19日、本庄市の阪東大橋下流の利根川で♂1羽♀1羽(北川慎一)。
- カワアイサ** ◇12月19日、本庄市の阪東大橋下流の利根川で♂21羽♀19羽(北川慎一)。
- オオタカ** ◇12月19日、浦和市のサギ山記念公園付近の鉄塔に若鳥1羽(松井昭吾)。
◇1月23日、東松山市大谷で1羽(石井清澄)。
- ノスリ** ◇12月16日、桶川市川田谷で1羽(北川慎一)。
◇12月19日、浦和市のサギ山記念公園付近の鉄塔に1羽(松井昭吾)。
◇12月30日、本庄市の阪東大橋付近で1羽(香川裕之)。
◇1月5日、花園町武蔵野上郷地区で1羽(小淵健二)。
◇1月9日、川越市砂新田で1羽(石井清澄)。
◇1月17日、川越市南古谷で2羽(石井清澄)。
- ハヤブサ** ◇1月10日、越谷市大吉で1羽(松井昭吾)。
◇1月12日、本庄市の阪東大橋付近で2羽(林 滋)。
- チョウゲンボウ** ◇12月16日、桶川市川田谷で1羽(北川慎一)。
◇1月10日、越谷市会の川で1羽(山部直喜)。
- クイナ** ◇1月17日、越谷市平方で1羽(山部直喜)。
- ケリ** ◇1月4日、上福岡市福岡新田の畑地で1羽(石井清澄)。
- タゲリ** ◇12月19日、浦和市のサギ山記念公園付近の田圃で30羽(松井昭吾)。
◇1月28日、川越市笠幡、小畔川のわきの田圃で5羽(塚原恵子)。
- ハマシギ** ◇1月31日、川本町の植松橋下流の荒川で約50羽(諏訪隆久)。
- オオハシシギ** ◇1月17日、浦和市三室の芝川で1羽(探鳥会参加者全員)。なお、同日、大宮市鴨川のオオハシシギも確認されており、それとは別個体の可能性が高い。
- セグロカモメ** ◇1月24日、浦和市秋ヶ瀬橋付近の荒川で1羽(近藤 崇)。
◇1月24日、越谷市の古利根川でユリカモメの群れ中に3羽(神場真文)。
- コミミズク** ◇1月12日午後5時、本庄市の阪東大橋下流の河原の樹上に1羽(林 滋)。
- カワセミ** ◇12月30日、本庄市の阪東大橋下流で2羽(香川裕之)。
◇1月15日、越谷市会の川で1羽(神場真文)。
◇1月20日、桶川市川田谷で1羽(北川慎一)。
- アオゲラ** ◇1月3日、日高町で1羽(増尾節子)。
◇1月14日、三芳町の多福寺で♂1羽(藤原寛治)。
- アカゲラ** ◇12月12日、蓮田市の国立東埼玉病院の雑木林で1羽(中島康夫)。
◇12月19日、熊谷市大麻生で1羽(諏訪隆久)。
- ビンズイ** ◇12月4日、蓮田市馬込の自宅の庭におりる(中島郁夫、高子)。
◇12月16日、蓮田市の国立東埼玉病院の雑木林で1羽(中島康夫)。
◇12月16日、鶴ヶ島町の大田ヶ谷沼付近で3羽(塚原恵子)。
- オオモズ** ◇1月2日、児玉郡上里町の烏川河川敷の休耕地で1羽(藤塚道秋)。
- ミソサザイ** ◇1月5日、花園町武蔵野上郷地区で1羽(小淵健二)。
- カヤクグリ** ◇1月5日、花園町武蔵野上郷地区で1羽(小淵健二)。
- ルリビタキ** ◇1月5日、花園町武蔵野上郷地区で♂1羽(小淵健二)。
◇1月14日、三芳町の多福寺で♀1羽(藤原寛治)。
- トラツグミ** ◇12月25日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で1羽(福井 亘)。
- アカハラ** ◇1月2日、川越市砂新田の保存林で2羽(石井清澄)。
- シロハラ** ◇1月14日、三芳町の多福寺で♂1羽(藤原寛治)。
◇1月17日、大宮市日進町の餌台に来てカキを食べる(森本國夫)。

キクイタダキ ◇12月16日、蓮田市の国立東埼玉病院の雑木林で1羽（中島康夫）。

エナガ ◇12月12日、蓮田市の国立東埼玉病院の雑木林で1羽（中島康夫）。◇1月5日、花園町武蔵野上郷地区で3羽、シジュウカラ5羽との混群（小淵健二）。

ヒガラ ◇12月12日 蓮田市の国立東埼玉病院の雑木林で1羽（中島康夫）。

ホオジロ（部分白化） ◇1月10日、本庄市の阪東大橋付近で頭部が部分白化した個体が1羽。昨年と同じ個体と思われる（北川慎一）。

ミヤマホオジロ ◇12月16日、蓮田市の国立東埼玉病院の雑木林で♂2羽♀3羽（中島康夫）。◇1月1日、鶴ヶ島町太田ヶ谷の農業経営大学校脇の雑木林で♂2羽（塚原恵子）。

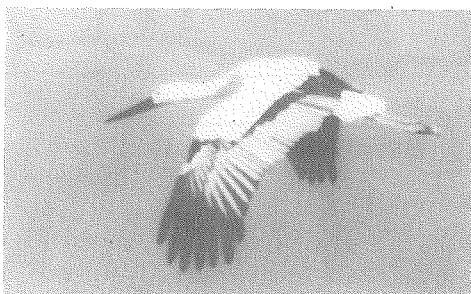
オオジュリン ◇1月13日、桶川市川田谷で約20羽。アシの茎をめくって、しきりに餌をとっている（北川慎一）。◇1月14日、

熊谷市大麻生の押切橋付近の河原で2羽（渡辺 敦）。

ベニマシコ ◇1月2日、児玉郡上里町の鳥川河川敷の休耕地で♀1羽（藤塚道秋）。

◇1月4日、本庄市の阪東大橋付近で♀1羽（諏訪隆久、登坂久雄）。◇1月14日、熊谷市大麻生の押切橋付近の河原で♀1羽（渡辺 敦）。

ウソ ◇1月4日、本庄市の阪東大橋付近で幼鳥1羽（諏訪隆久、登坂久雄）。



コウノトリ（1月17日、長野県佐久市、北川慎一撮影）

【3月の見どころ】

3月の野山では、ウグイスがさえずり、ヒバリは空高く舞っているでしょう。ツバメの便りも、あちらこちらからきこえてくるでしょう。さて、皆さんにとっての春告げ鳥は何でしょうか。

春告げ鳥の一つにキジもあげられると思います。3月になると、田圃や畑、河川敷等でテリトリーを宣言する雄の「ケンケン」という声が、よく聞かれます。近くで聞くことができれば、「ケンケン」の終りの「ン」の字が終るか終らないかの時に「ドドド…」というすさまじい音が一緒に聞えてくるのが

わかります。「しらこぼと」85年9月号の表紙に、このすばらしい写真が載っていますが、これは、ほろ打ちといって、翼をすごい勢いではたいて音を出し、テリトリー宣言をしているのです。その迫力たるや、はばたいた勢いで、体は10センチぐらい宙に浮き、20センチぐらいバックしてしまうほどです。

田圃の畦道や小高い丘の上などのわりあい見晴らしのよい場所で、ほろ打ちを見かけることができます。テリトリーを巡回している雄を見かけたらチャンスです。キジをおどろかさないように注意して、そっと観察しましょう。この春を告げる力強い雄叫びをお聞き下さい。

（藤原 寛治）

表紙の写真

メジロ（メジロ科）

小さな林に入っていったら、すぐにカスミ網が見えた。あたりを見まわすと、ほかにも密猟のしかけがある。

やがて姿を現わした密猟者とのやりとりのあとすべてそれらを撤去させたが、法律的な

権限を持ち合わせない身では、カスミ網などを没収することはできなかった。

密猟者は足音荒く引き上げて行き、静かな時間が流れた。メジロが近くまで寄ってきてチーと鳴いた。（写真と文・海老原美夫）



長野県・軽井沢探鳥会

期日：3月6日（日）

集合：午前6時30分 大宮駅中央改札口前

交通：高崎線大宮6：42発普通電車に乗車、高崎で特急に乗換え、中軽井沢駅下車。途中駅からの乗車も可。大宮7：22発特急あさま1号利用も可。中軽井沢駅からバス利用。

解散：現地にて午後3時ごろ

担当：中島、楠見、草間、横山

見どころ：白い雪、赤い鳥。暖冬のせいか冬鳥の出足不調の今シーズンでしたが、今度こそ小柄な冬のスターの勢揃いを祈りましょう。マシコ類、レンジャク類、ウン等、無事に出ますように。なお今回も防寒と足元の準備は充分に。

茨城県・菅生沼探鳥会

期日：3月12日（土）

集合：午前8時30分 東北本線蓮田駅東口
（その後現地までは車に同乗して行きます）

交通：東北本線大宮8：12発→蓮田8：21着

解散：蓮田駅にて午後5時ごろ

定員：御自分の車で来られる方の人数制限はありません。車に同乗される方についてのみ定員15名。事前に中島康夫（☎）まで申し込んで下さい。燃料費負担500円が必要です。

担当：中島康夫、楠見邦博

水辺に山に田園に、冬鳥達は健在です。でもほら、日一日と旅立ちの近づく彼女達、違うのでしょうか。今だからこそその微妙な味わいを求めて、探鳥会に。

持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、（もしあれば）双眼鏡などです。

参加費は、一般＝100円、会員及び中学生以下＝50円。予約申し込みは必要ありません。小雨決行です。

夢中になり過ぎて、鳥を驚かしたり、植物を荒らしたりなどしないように。いつもフィールドマナーをお忘れなく。

見どころ：白鳥と猛禽の水辺。自然度の高い沼は、数十羽のコハクチョウを始め多くの水鳥達の憩いの場。そして、獲物を狙うハヤブサやオオタカの訪れとともに、大きなドラマの舞台にも。

熊谷市・大麻生探鳥会

期日：3月13日（日）

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9：04発→大麻生9：12着 / 秩父鉄道寄居9：01発→大麻生9：19着

解散：午後1時ごろ

担当：鈴木（忠）、渡辺（敦）、諏訪

見どころ：春のさきがけを探してみませんか（Ⅰ）。帰り支度を始めたツグミ、アオジやカモ達。真冬の彼等との行動の違いをよく見ておきましょう。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：3月13日（日）

（今月だけ第2日曜日に行ないます）

集合：午前8時15分 北浦和駅東口 または午前9時 浦和市立郷土博物館前
（北浦和駅の場合、その後バス利用）

解散：午後1時ごろ

共催：浦和市立郷土博物館（参加費無料）

担当：楠見、福井、渡辺（周）、乗田、手塚

見どころ：春のさきがけを探してみませんか（Ⅱ）。ユリカモメの頭も黒くなり始め、小鳥達の歌も大きくなってきます。

浦和市・さぎ山記念公園探鳥会

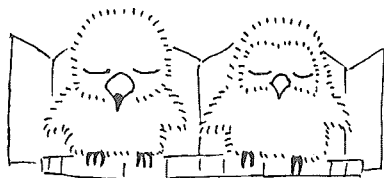
期日：3月20日（日・祝）
集合：午前9時30分 さぎ山記念公園駐車場
交通：大宮駅東口7番バス乗場から中野田行き8：40発→上野田下車／浦和駅西口1番バス乗場からさぎ山記念公園行き8：55発→終点下車
解散：午後1時ごろ
担当：海老原美夫、松井昭吾
見どころ：鷺山の夢の跡に今年も春が巡ってきました。ノスリやタゲリにお別れをし、小鳥達の喜びの歌に耳傾け……。

秩父市・羊山公園探鳥会

期日：3月21日（振休）
集合：午前10時 西武秩父線横瀬駅前
交通：西武池袋線秋津8：28発→所沢で快速急行に乗換え→横瀬9：45着／秩父鉄道熊谷7：46発→御花畑8：57着、西武線乗換え、西武秩父9：22発→横瀬9：25着（熊谷8：30発→御花畑9：41着、徒歩で（30分位かな？）横瀬駅までいく方法もあり）
解散：午後1時ごろ
担当：海老原美夫、福井恒人
見どころ：早春の秩父路。山里風景の中の散策、桜のつぼみに集まるウソ。今までに無い魅力に溢れた、初めての探鳥コースに御期待下さい。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：3月26日（土） 午後1時～3時ごろ
会場：浦和市立コミュニティーセンター地階第一集会室（浦和駅西口から県庁通り西進、中山道を左折し約600m右側）
案内：1周年を迎えた袋づめの会。おしゃれで明るい支部活動に今後も御協力を。

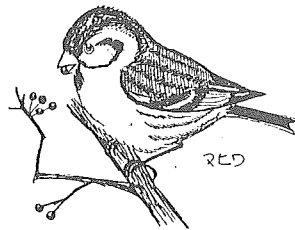


野鳥写真クラブ定例会

とき：3月26日（土） 午後3時ごろ～5時
会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ
案内：一番ナウな写真の楽しみ方はこれ！

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：3月27日（日）
集合：午前9時 東武越生線川角駅前
交通：川越線大宮7：35発→川越7：54着、東武東上線乗換え急行8：00発（特急8：20発も可）→坂戸8：15着、越生線乗換え8：35発→川角8：45着
解散：午後2時ごろ
担当：中島康夫、楠見邦博
見どころ：春の陽光に輝く川面にヤマセミ色の彩りさえれば言うこと無し。ゆったりと水辺の散策を続ければ、渡り鳥達との別れと出会いのひとつきも。



浦和市・秋ヶ瀬探鳥会

期日：4月3日（日）
集合：午前9時 浦和駅西口バスロータリー（その後現地までバスを利用）
解散：午後1時ごろ
担当：福井恒人、海老原美夫
見どころ：去り行く冬の小鳥達。黄色い胸を輝かせて歌うアオジ、黒頭巾のカシラダカ、今年は立ち寄ってよレンジャク。

4月10日(日) 北川辺町・渡良瀬遊水池探鳥会
4月17日(日) 浦和市・三室地区探鳥会
5月1日(日) 川崎市・多摩川河口探鳥会
5月3日(祝) 寄居町・鐘撞堂山探鳥会
5月8日(日) バードウィークー斉探鳥会
なお三宅島探鳥会は定員一杯になりました。
(カット＝鈴木加代子、鈴木 高士)

行事報告

12月20日(日) “年は忘れても鳥は忘れないの会” 浦和市立コミュニティーセンター

☑ 第1部:31人 第2部:26人

第1部は、本部のツル保護特別委員会事務局長中村玲子さん(北海道鶴居村に日本初のタンチョウのサンクチュアリをオープンした蔭の立役者)からツルと釧路湿原保護のお話を伺い、そのあと、当支部の海老原事務局長による支部活動のスライドと鳥談義を楽しんだ。第2部は、席を改めて中村さんを囲んでのパーティー。さらに、二次会(三次会?)へと楽しいひとときを過ごした。最後まで付き合ってくださいました中村さん、どうも有難うございました。

1月3日(日) 東京都北区 浮間公園

☑ 24人 ☑ 天気 曇時々雨 ☑ 鳥 カワウ アオサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ホシハジロ キンクロハジロ スズガモ チョウゲンボウ ユリカモメ セグロカモメ キジバト ヒバリ ハクセキレイ ヒヨドリ ツグミ シジュウカラ ホオジロ カシラダカ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (25種)

「明けましておめでとございます」と駅前に響く、三脚を持った異様な風体の人々の声。小雨が降っているのに、よく集まるものだ。河原でチョウゲンボウに挨拶したあと、池のほとりに戻ってカンパニー、今年もよろしく。

1月9日(土) 長野県 軽井沢

☑ 50人 ☑ 天気 曇 ☑ 鳥 カイツブリ コガモ トビ ノスリ チョウゲンボウ キジバト ヤマセミ アオゲラ アカゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ カワガラス ミソサザイ ツグミ キクイタダキ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ ミヤマホオジロ カワラヒワ ハギマシコ ベニマシコ ウソ イカル シメ スズメ ハシボソガラス

ハシブトガラス (38種) 旧軽井沢の別荘地では、アオゲラ、アカゲラを存分に楽しめた。湯川では、運

のいい人はヤマセミを見られ、塩壺温泉では、お目当てのハギマシコも1羽。暖冬のためか鳥の数もいつもより少な目だったが、それでもやはり軽井沢。

1月10日(日) 越谷市 古利根川

☑ 31人 ☑ 天気 晴 ☑ 鳥 カワウ ダイサギ コサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ ヒドリガモ アメリカヒドリ オナガガモ ハシビロガモ コチドリ イカルチドリ イソシギ ユリカモメ セグロカモメ キジバト ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ ツグミ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (28種) 鳥合わせで気が付いて皆大笑い。なんと越谷なのに誰もシラコバトを見ていなかった。でも、去年に続いてアメリカヒドリ雄1羽が飛来していた。良く見ると、交雑個体も2羽混じっていた。もしかしたら、ジュニアたちかも。

1月10日(日) 熊谷市 大麻生

☑ 21人 ☑ 天気 晴 ☑ 鳥 カイツブリ コサギ コハクチョウ ノスリ チョウゲンボウ コジュケイ キジ クサシギ イソシギ ユリカモメ キジバト カワセミ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) やっと冬らしくなった大麻生。メジロが樹液を吸っているところを観察でき、ウグイスの姿も見られた。目の前から、ホオジロ、カシラダカが、次々に飛び上がり、なんと、キジも足元から飛び出した。朝の下見で30羽居たコハクチョウの姿が見えなくて心配したが、しっかり8羽が編隊飛行。ここでは、カワセミは当たり前。ただ、鉄砲に追われてカモが見えないのは残念だった。

1月17日(日) 浦和市 三室地区

☑ 74人 ☑ 天気 曇 ☑ 鳥 カワウ コサギ カルガモ コガモ オナガガモ チョウゲンボウ コ

チドリ ハマシギ オオハシギ タカブシギ イソシギ タシギ ユリカモメ セグロカモメ キジバト コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシボソガラス (38種) ウーさぶい！なんて歩いていたら、なんと！昨年末から大宮市内の鴨川で越冬していて、新聞にも我が支部のEさんの写真が掲載された、あのオオハシギが、芝川にも登場してしまったのです。「こんなの探鳥会で出しちゃっていいのかなー」なんて、リーダーたちの方が興奮気味。埼玉で3回目の記録だそう。後で鴨川に行ってみると、ちゃんと居ました。つまり、2羽も現われて

しまったようなんです。暖冬異変…かな？

1月24日(日) 寄居町 鉢形城跡と荒川

☑ 24人 ☑ 天気 ☑ 晴 ☑ 鳥 カイツブリ ダイサギ コサギ イカルチドリ クサシギ イソシギ キジバト ヤマセミ カワセミ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ ジョウビタキ ツグミ エナガ シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ イカル シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシボソガラス (30種) 幸運なことに、最初に見た鳥がヤマセミ。ちょこんと枝にとまっていたが皆に見つめられて恥ずかしかったのか、奥にかくれてしまった。カワセミのダイビングあり、イカルの枝移りあり、楽しい一日だった。

参加者の声

軽井沢探鳥会

その1

谷津 弘子 (川越市)

前から楽しみにしていましたので、朝早いのもものともせず出かけました。結果はやはり有意義な一日でした。

軽井沢の朝は冷気がとても清々しく、遠くの山々はうっすら雪をかぶり早くも期待に心もはずみます。

参加者が続々と集まり大盛況です。あちらこちらで、新年の挨拶や鳥見の話に花が咲いています。

新年最初の探鳥会は、和やかなうちに始まりました。別荘地ではアオゲラ、アカゲラが期待どおり現

われてくれ、また雲場の池ではコガモがにぎやかに、私達を迎えます。

塩壺温泉ではミソサザイが、何度も姿を見せてくれます。そしてホテルの庭にはハギマシコが現われたのです。言葉には表わせない絶妙な色合いです。まさに本日のハイライトとも言うべき鳥の出現に、しばし見とれてしまいました。

雄大な浅間山を眺めながら中軽井沢へと向かい、アカゲラに見守られながら鳥合わせ、解散後はカワガラスのおまけまでつきました。

念願の鳥に出会うことができ、楽しい一日でした。皆様に心から御礼申し上げます。

その2

山本美代子 (鴻巣市)

憧れの軽井沢!! と私がはしゃぐものだから、仕事のために参加出来ない主人は、「今の軽井沢は若者向きになっていてつまらないぞ」と水を差す。

軽井沢駅前通りはモダンな建物が並び、「珈琲飲んだら素敵だろうナー」と考えながらリーダーの後について歩くこと数分。落葉松の林の中に前日降った雪が残り、ヨーロッパ調の木立の間に静かに点在するどなたかの別荘群。白秋の落葉松の詩が思い出されます。

私の今日の目的は、キツツキとエナガ。あちこちで歓声が上がリ探鳥会の始まりです。歩き始めて間もなく目的達成。アカゲラ、アオゲラに逢えたので

す。赤い小さな帽子に對のパンツのアカゲラ君。グリーンのコートの下に黒縞のセーター姿のアオゲラ嬢。本当に木をつついてはいる。コツコツと……。

鳥に焦点を合わせるのに苦労し望遠鏡をのぞかせて頂きながら、里では見ることのできない数々の鳥に出会いました。

途中風花と呼ぶ雪が舞い、足元のアイヌバーンに体のバランスを崩しながらの探鳥会でしたが、私にはやはり素晴らしい軽井沢でした。

春、林に若者の嬌声が満ちる前にもう一度来たいと思いながら、西日に白く大きい浅間山が映える雄大な眺望を土産に車中の人となりました。皆さん本当にお世話になりました。

連絡帳



しらかばとエンブレム第2次製作発売



ごぞんじ
埼玉県支部
のオリジナル
商品しらか
ばとエン
ブレム、300
枚製作した
第1次分が
大変ご好評

をいただき、予想を上回る売れ行き、1年間で早くも売り切れてしまいました。

にんまりとした事業部は、このたび第2次分300枚を追加製作、発売しました。

デザインなどはわかりありません。

もう最初買ったものが汚れてしまった方、こっちのザックにもつけたいなという方、なんとまだ持っていなかったという方も、どうぞお求めください。

支部会員が野鳥画展

熊谷地区の探鳥会でリーダーとして活躍している渡辺敦会員が、20才の記念に、2月1日から29日まで、熊谷市箱田の画廊喫茶「茶居花」で野鳥画展を開き好評でした。

ありがとうございます

●次の方々からご寄付をいただきました。

白井陽 1,000円、草間和子 2,000円、杉本秀樹 2,000円、野崎幸雄 5,000円。

●次の方々からは支部賛助会費（通常の会費

題字『しらかばと』=山下静一（財）日本野鳥の会会長、イラスト見出し=鷹尾正済(p5, 6, 12, 表紙デザインも)・鈴木加代子(p8)・渡辺周司(p10)

との差額分8,000円)をいただきました。

草間和子、楠見邦博、森本國夫。

(いずれも50音順、敬称略)

いつでも募集中

表紙の写真、カット、会員の声などの原稿をいつでもお待ちしております。みんなで作る『しらかばと』です。よろしく。

会員数は

2月20日現在 841人です。

活動報告

- 1月17日 普及部会議。
- 1月17日 役員会議（司会・山部直喜、各部の報告、行事の予定について、その他）
- 1月22日 西武狭山ステーションビルから、野鳥の絵を掲示するにつき協力依頼。
- 1月23日 『しらかばと』2月号校正（大武昭雄、西城戸司、森本國夫）。26日も（森本陽子）。
- 1月23日 研究部会議。
- 1月24日 越谷市内のガールスカウト約30人に、古利根川で野鳥観察指導（山部直喜、海老原美夫、神場真文、木村義人、藤原寛治）。



所沢の狭山湖探鳥会後、3月21日に予定されている秩父の羊山公園探鳥会の下見へ行ってきました。イカルが道案内をしてくれ、ベニマシコが愛敬をふりまき、アオゲラが見栄を切り、トラツグミまでが登場してくれました。太陽は、十分に西へ傾いていた時間なのにこの豪華さ。本番ではウソにも出演を依頼したとか…。当日が今から楽しみです。

(山部)

『しらかばと』 1988年3月号（第46号）

定価 100円（会費に含まれます）

発行人 今井昌彦 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部

☎ 0488 (32) 4062

〒 336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号プリムローズ岸町107号 郵便振替東京9-121130

印刷 望月印刷株式会社

(本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)